

授 業 要 項

令和6年度

科目名	社会福祉学				担当者	添田 正揮 増田 美穂子、船橋 良太			
学 年	3	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	患者、利用者、家族の立場に立って、 社会保障・社会福祉の歴史、現状、今日的課題、今後の課題等を学ぶ。									
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者		
	1	総論 I 日本の社会保障制度の概要 ・国民生活と社会保障(1-2)	ライフサイクルとライフステージごとの社会保障を理解する。						添田 正揮	
	2	総論 I 日本の社会保障制度の概要 ・社会保障制度の変遷(3-6)	戦後から現在までの社会保障制度の変遷を理解する。						添田 正揮	
	3	総論 II 日本の社会保障を取り巻く環境 ・人口構造の変化(少子高齢化)(1-3)	少子高齢化を含む人口構造の変化と社会保障との関係や問題を理解する。						添田 正揮	
	4	総論 II 日本の社会保障を取り巻く環境 ・構造の変化(4-7)	日本のさまざまな構造の変化を理解する。						添田 正揮	
	5	総論 II 日本の社会保障を取り巻く環境 ・増加する社会保障給付と制度改革(8-13)	社会保障給付の負担と社会保障制度改革を理解する。						添田 正揮	
	6	各論 I 社会福祉 ・公的扶助(生活保護)(1-3)	生活保護を中心とした生活困窮者に対する支援を理解する。						添田 正揮	
	7	各論 I 社会福祉 ・高齢者施策(権利擁護、保健福祉、介護保険、認知症)(4-8)	高齢者保健福祉の変遷と介護保険制度、認知症施策、権利擁護を理解する。						添田 正揮	
	8	各論 I 社会福祉 ・子育て施策(保育、母子保健、育児休業)(9-17)	保育、手当、母子保健、育児休業を中心とした子育て支援を理解する。						添田 正揮	
	9	各論 I 社会福祉 ・障害者施策(障害者基本法、障害者総合支援法、保健福祉、虐待)(18-25)	障害保健福祉の変遷と障害者基本法、障害者総合支援法、虐待防止を理解する。						添田 正揮	
	10	各論 II 保健医療 ・医療保険制度、高齢者医療制度(1-15)	医療保険制度、高齢者医療制度を中心とした保健医療の概要を理解する。						増田 美穂子	
	11	各論 III 年金・労働保険 ・年金制度、労働保険制度(1-8)	年金制度、労働保険制度の概要を理解する。						増田 美穂子	
	12	保健・医療・福祉の連携および今後の課題	保健・医療・福祉の連携および今後の課題を理解する。 東名古屋病院での連携の実際を学ぶ。						船橋 良太	
授業形態	講義、グループワーク									
教科書	社会保障入門2024 中央法規出版									
参考書	適宜紹介する									
評価方法	レポート 授業時間数に応じて配分									
授業時間外の学習	講義後は配布資料や講義内容を元に30分程度の復習を行うこと									
履修上の留意点	授業に際し能動的に参加すること									

授 業 要 項

令和6年度

科目名	理学療法研究法			担当者	中川 誠、中村 敦子、米田 愛、 堤 恵志郎、川瀬 翔太、藤野 博明				
学 年	3	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	2	時間数	60

教育目標 [一般目標]	1. 理学療法分野における科学的な研究の手続きについて学ぶ。 2. 研究法の一端を経験し、考え方を学ぶ。							
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]				担当者		
	1 研究法総論①	理学療法における研究の意義、研究の種類および研究デザインについて理解する。研究論文を通して、研究の流れを把握し、研究計画の立案が出来る。				堤 恵志郎		
	2 研究法総論②	統計学と研究デザインの関わりを理解し、卒論で使用する統計を選択、実施することが出来る。				堤 恵志郎		
	3 研究法各論(52時間)	理学療法分野における研究の意義を知る。研究の過程と流れを理解し、実践できる。研究の目的を明確にできる。研究の方法論を調査、決定できる。研究結果から考察を推測し、自分達の考えを述べる事ができる。研究発表を実施することができる。				中川 誠 中村 敦子 米田 愛 川瀬 翔太 堤 恵志郎 藤野 博明		
	4							
	5							
	6							
	7							
	8							
授業形態	講義 グループワーク グループ発表							
教科書	特になし							
参考書	適宜紹介							
評価方法	研究課題および発表内容(100%)							
授業時間外の学習	課題提出や発表日程に間に合うように計画的にグループワークを進めること。							
履修上の留意点	グループでの研究課題においては、担当指導教員に指導を仰ぐこと。							
担当者の実務経験	学会での研究発表の実務経験あり							

授 業 要 項

令和6年度

科目名	理学療法管理学Ⅱ				担当者	中川 誠			
学 年	3	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	15

教育目標 [一般目標]	理学療法管理学Ⅰでは、理学療法士に必要とされる基本的な資質、能力と定義して学んだ。理学療法管理学Ⅱでは、さらにテーマごとに具体例をあげて学際的に管理学を学ぶ。								
授業計画	テーマ				授業内容 [行動目標]			担当者	
	1 リスク管理				身近な題材をもとにリスク管理と理学療法への展開について理解することができる			中川 誠	
	2 保健制度と診療報酬				リハビリに関わる診療報酬の概要を理解し、理学療法の適正な提供と収益について考えることができる			中川 誠	
	3 日常業務と労務管理				日業業務と業管理について理解することができる			中川 誠	
	4 臨床推論(整形疾患)				臨床推論について事例を通して理解を深めることができる			中川 誠	
	5 臨床推論(中枢疾患)				臨床推論について事例を通して理解を深めることができる			中川 誠	
	6 医療倫理				医療倫理について理解を深めることができる			中川 誠	
	7 卒前卒後教育				臨床実習の在り方を中心に卒前卒後教育の現状と課題を知ることができる			中川 誠	
授業形態	講義・グループワーク								
教科書	なし、必要に応じて資料提示								
参考書	特になし								
評価方法	筆記試験またはレポート課題								
授業時間外の学習									
履修上の留意点	特になし								
担当者の実務経験	病院勤務による理学療法実務経験あり								

授業要項

令和6年度

科目名	運動器障害理学療法学Ⅱ				担当者	横井 克佳、神山 卓也、平野 佳代子、 松田 隆汰、蕨野 博明			
学年	3	学期	前期	学科	理学療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	解剖・運動学など運動器における基礎的知識を理解し、整形外科疾患の病態、評価、治療など臨床における理学療法の考え方を理解する。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
1	教科書および資料を使用し、脊髄損傷を学ぶ	脊椎・脊髄の解剖、神経生理学、臨床症状 呼吸器の障害、臨床症状 褥瘡の病理および治療、臨床症状 尿路管理 排尿・排便の臨床症状、随伴症状・合併症、運動学 残存機能レベルと諸動作、検査・測定 ASIA ADL検査 動作分析、治療技術 筋力強化・可動域訓練、治療技術 諸動作の観察 ADL訓練、動作分析 ビデオ演習、演習 ビデオと通じて治療手技を学ぶ						横井 克佳	
2	機能解剖学を基に考える整形外科疾患に基づく評価・治療(総論・TKA・THA・保存療法・拘縮 他)	病態・障害の把握や解剖学等の基礎的知識が理学療法実施する上で、いかに重要かを理解する。 評価・治療を具現化するための具体的方法論を考え体現することで考え方、技術を体験する。 整形外科部門での画像との関わり方を理解する。また、超音波画像診断装置を使用した学会発表や臨床の応用が増えてきているため実際の使い方や臨床応用を体験する。						神山 卓也	
3	スポーツによって生じる外傷・障害に対するリハビリテーションおよび理学療法士としての対応	代表的なスポーツ外傷・障害について、その病態、発生メカニズム、発生要因などを解説する。疾患ごとに理学療法士が取り組むこととなる運動器の機能低下を提示し、評価方法を実技で行う。さらに、競技種目特性も絡め、最も重要となるスポーツ動作の分析方法について、基本的な考え方を学ぶ。これらを総合して、スポーツ外傷・障害へ取り組むための思考プロセスを学ぶ。 また、ケーススタディとして選手の競技復帰についてグループディスカッションを行い、視点を広げる取り組みも行う。						平野 佳代子	
4	整形外科疾患の急性期における理学療法・ケーススタディ	急性期運動器障害について説明できる。 急性期運動器障害に対する理学療法について説明できる。 臨床推論を通じて、治療の一端を学ぶ。						松田 隆汰	
5	膝靭帯損傷後の理学療法	膝靭帯損傷後の運動療法の目的および進め方と留意点を理解する						蕨野 博明	
6	熱傷の理学療法	熱傷後の運動療法の目的および進め方と留意点を理解する						蕨野 博明	
授業形態	講義、ビデオ上映、実技実習、グループディスカッション								
教科書	頸髄損傷のリハビリテーション 改訂第3版 (株)協同医書出版社 印刷物の配布								

授 業 要 項

参考書	<p>小林寛和編集:アスリートのリハビリテーションとリコンディショニング上巻・外傷学総論／検査・測定と評価ーリスクマネジメントに基づいたアプローチ. 文光堂. 東京. 2010. 競技種目特性からみたリハビリテーションとリコンディショニングーリスクマネジメントに基づいたアプローチ. 文光堂. 2014. 赤坂清和編集:スポーツ理学療法学ー動作に基づく外傷・障害の理解と評価・治療の進め方ー第3版. MEDICAL VIEW. 東京. 2023 浅野昭裕著:運動療法に役立つ単純X線像の読み方 松本正知著:骨折の機能解剖学的運動療法 林典夫著:運動療法のための運動器超音波機能解剖 拘縮治療との接点 坂井建雄監訳:プロメテウス 解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 整形外科学 第5版 医学書院 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト 運動器障害理学療法学Ⅱ 第2版:中山書店</p>
評価方法	<p>横井:小テスト20%、論述試験80% 神山:筆記試験 平野:レポート60%、授業態度40% 松田:レポート 藤野:筆記試験 授業時間数に応じて配分</p>
授業時間外の学習	<p>事前に膝周囲の解剖学及び体表解剖の復習 事前・事後学習として1時間程度</p>
履修上の留意点	<p>授業内容をレポートにまとめるため、ノートはしっかりとること。活発な意見交換をすること。 上記の内容を復習しておく事。グループディスカッションでは個々の知識の中で積極的に意見を出すこと 関連する解剖学を復習して講義を受けること</p>
担当者の実務経験	<p>病院勤務による理学療法実務経験あり</p>

授業要項

令和6年度

科目名	神経障害理学療法学Ⅱ				担当者	川島 一輝、横地 雅和、高橋 勇介、 渡邊 依里子、神納 雅也、 松田 直美、磯村 元希、 堤 恵志郎、蕨野 博明			
学年	3	学期	前期	学科	理学療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	神経障害理学療法学について学ぶ。 主に脳血管疾患、神経難病の病態・評価・治療について、ケーススタディを基に学ぶ。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]					担当者		
1	急性期における脳血管障害の理学療法・ケーススタディ	急性期脳血管障害について説明できる。 急性期脳血管障害に対する理学療法について説明できる。 臨床推論を通じて、治療の一端を学ぶ。 リスク管理、二次障害の予防を説明できる。					川島 一輝		
2	脳性麻痺の理学療法・ケーススタディ	脳性麻痺について説明できる。 脳性麻痺に対する理学療法について説明できる。 症例を通して、脳性麻痺の評価項目を列挙できる。 臨床推論を通じて、治療の一端を学ぶ。					横地 雅和 高橋勇介		
3	成人コミュニケーション障害の概論 失語症の症状、下位タイプ、評価方法、 失語症患者とのコミュニケーションについ て	成人におけるコミュニケーション障害と失語症との違いにつ いて理解する。失語症の症状、下位タイプを理解し、評価方 法を学ぶ。失語症患者とのコミュニケーション方法を学び、その 工夫について考える。失語・高次脳機能領域の解説					渡邊依里子		
4	回復期における脳血管障害の理学療法・ ケーススタディ	回復期脳血管障害について説明できる。 回復期脳血管障害に対する理学療法について説明できる。 臨床推論を通じて、治療の一端を学ぶ。					神納 雅也		
5	筋萎縮性側索硬化症・脊髄小脳変性症 の理学療法、ケーススタディ	神経難病について説明できる。 神経難病に対する理学療法について説明できる。 臨床推論を通じて、治療の一端を学ぶ。					松田 直美 磯村 元希		
6	中枢神経系の理学療法の基礎	痙縮、感覚障害、運動麻痺に関して説明できる					蕨野 博明		
7	脳血管障害 総論、急性期、回復期、維 持期 脳血管障害患者の評価と実際	脳血管障害における概要、理学療法の考え方、各期の評 価・治療等に関して説明できる。 離床を図る上で安全に施行する手順、治療におけるリスク管 理、二次障害の予防を説明できる。 脳血管障害による後遺症が、基本動作へ及ぼす影響とその 対策を検討できる。					蕨野 博明		
8	神経難病	神経難病について、その病態の概略を説明することができ、 障害の特徴や理学療法におけるリスク管理、病期に応じた 理学療法治療プログラムを列挙できる。					堤 恵志郎		
授業形態	講義、グループ発表、症例検討、実技実習								
教科書	千田富義・高見彰淑・第3版 リハ実践テクニック 脳卒中中、メジカルビュー社 沼田憲治：改訂第2版 脳機能の基礎知識と神経症候ケーススタディ 症例から学ぶリハビリテーション臨床思考、メジカルビュー社 河村満：メディカルスタッフのための神経内科学、医歯薬出版 田崎義昭他：ベッドサイドの神経の診かた、南山堂								

授 業 要 項

参考書	<p>脊髄小脳変性マニュアル決定版・新ALSケアブック第2版 すべてわかるALS・運動ニューロン疾患 小脳と運動失調小脳はなにをしているのか 原寛美・吉尾雅春編 脳卒中理学療法の理論と技術、メジカルビュー社 日本脳卒中学会 脳卒中ガイドライン委員会 脳卒中治療ガイドライン2015 協和企画 日本脳卒中学会 脳卒中ガイドライン委員会 脳卒中ガイドライン2021 協和企画 亀田メディカルセンター リスク管理ハンドブック メジカルビュー社 網本和・長澤弘・吉村茂和 理学療法チェックリスト 三輪書店</p>
評価方法	<p>レポート(川島、横地・高橋、渡邊、神納、松田・磯村)、筆記試験(蕨野、堤) 授業時間数に応じて配分</p>
授業時間外の学習	<p>30分～1.5時間程度の事前・事後学習 講義後は配布資料や講義内容を元に1.5時間程度の復習を行うこと 神経障害の疾患、評価等について30分程度の事前学習を行い、講義後は配布資料や講義内容を元に1.5時間程度の復習を行うこと</p>
履修上の留意点	<p>神経障害の解剖生理、疾患、病態の理解をしておくこと。 自ら調べ解釈や考察を進めていくこと。 実習において脳血管障害の患急性期理学療法におけるリスク管理の復習者さんを評価見学した際に困ったことを考えておいてください。 脳性麻痺の特徴、病態について予習をお願いします。</p>
担当者の実務経験	<p>病院勤務による理学療法実務経験あり</p>

授 業 要 項

令和6年度

科目名	内部障害理学療法学Ⅱ			担当者	米澤 久幸、磯村 隆倫、櫻木 聡 鬼頭 和也、中村 敦子、川瀬 翔太				
学 年	3	学 期	前期	学 科	理学療学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	肺理学療法の技術について説明でき、基本となる手順を行うことができる。 糖尿病理学療法の基礎を理解し、実際の理学療法場面での応用を学ぶ。 急性期における内部障害(呼吸器障害)に対する理学療法の考え方を学ぶ。 内部障害疾患についての理学療法の考え方、進め方を理解する。 がんのリハビリテーションにおける理学療法士の役割について学ぶ。							
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]					担当者	
	1 肺理学療法	呼吸介助手技・肺痰法の知識と実際に学ぶ					米澤 久幸	
	2 糖尿病の病態・検査と治療 糖尿病の合併症と治療 糖尿病患者の理学療法評価 糖尿病患者の運動療法 糖尿病患者の患者教育	<ul style="list-style-type: none"> ・糖尿病の病態と病型分類を理解し説明できる。 ・糖尿病の検査と診断方法を理解し説明できる。 ・糖尿病の治療を理解し説明できる。 ・糖尿病の合併症とその種類を理解し説明できる。 ・急性合併症とその治療および対処方法を説明できる。 ・慢性合併症とその治療および対処方法を説明できる。 ・糖尿病患者に対する理学療法評価が説明できる。 ・糖尿病患者の運動療法の適応と禁忌が説明できる。 ・糖尿病患者における患者教育について理解する。 ・上記を学んだ上でグループワークを行い、実際の場面を想定して糖尿病患者への関わりについて学ぶ。 					磯村 隆倫	
	3 急性期における内部障害(呼吸器障害)に対する理学療法・ケーススタディ	急性期呼吸器障害について説明できる。 呼吸器障害に対する理学療法について説明できる。 臨床推論を通して、治療の一端を学ぶ。					櫻木 聡	
	4 内部障害(循環器障害)に対する理学療法・ケーススタディ	循環器障害について説明できる。 循環器障害に対する理学療法について説明できる。 臨床推論を通して、治療の一端を学ぶ。					鬼頭 和也	
	5 呼吸器疾患の理学療法	呼吸器疾患の理学療法について 呼吸器の評価、呼吸不全の病態 酸素療法、人工呼吸器 呼吸器疾患の病態 症例検討					中村 敦子	
	6 がんのリハビリテーションの概要 緩和ケアについて リンパドレナージ	がんのリハビリテーションの概要、分類、緩和医療について理解し、理学療法を行ううえでのリスク管理について説明できる。 がん患者に対するリンパドレナージを知る					中村 敦子	
	7 循環器疾患の理学療法	循環器疾患(大血管疾患・末梢血管・腎疾患)の評価、病態、理学療法を理解する。					川瀬 翔太	
授業形態	講義、実技、グループワーク(グループ発表)							
教科書	15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト内部障害理学療法 呼吸 改訂第3版:中山書店 15レクチャーシリーズ 理学療法テキスト内部障害理学療法 循環・代謝 改訂第2版:中山書店 病気が見えるvol2 循環器疾患,メディックメディア							
参考書	糖尿病治療ガイド2018-2019 日本糖尿病学会 文光堂 糖尿病療養指導ガイドブック2018 日本糖尿病療養指導士認定機構 メディカルレビュー社 内部障害理学療法学,第2版,医学書院 内部障害理学療法学テキスト,改定第3版,南江堂 循環器リハビリテーションの理論と技術,改定第2版,メジカルビュー 極める循環器理学療法-循環器病を有する患者の障害像に挑む-,第1版,文光堂 内部障害理学療法学テキスト,改訂第3版,南江堂							

授 業 要 項

評価方法	米澤:学修状況40%、レポート60% 磯村:筆記試験 櫻木:レポート 鬼頭:講義中のグループワークの発表20%、レポート80% 中村:筆記試験(呼吸器100%)、レポート(がん100%) 川瀬:筆記試験 授業時間数に応じて配分
授業時間外の学習	授業後に実技の練習を学生間でよく行うこと。 2年生の呼吸に関する授業の復習をお願いします 30分～1.5時間程度の事前・事後学習
履修上の留意点	解剖、生理の知識を再確認して授業に臨むこと。 糖尿病の基礎を理解した上で、実際の理学療法場面でどのように活用できるかグループワークを行うため自分ならどのように評価するか、何に注意して理学療法を行うのか積極的に意見できるように履修すること。 グループワークでの成果物を基に、そのグループへの点数を付けます。 レポートは個別に実施します。講義での内容をまとめてください。
担当者の実務経験	病院勤務による実務経験あり

授 業 要 項

令和6年度

科目名	小児発達障害理学療法学				担当者	金子 満寛、鶴飼 宏和 小川 陽子、山下 晃平			
学 年	3	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	代表的な小児疾患の特徴の把握と理学療法を行うための基本的な知識を身につける。 筋ジストロフィー患者に対するリハビリテーションについて学ぶ。 重症心身障がい児・者に対するリハビリテーションについて学ぶ。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 小児理学療法概論 小児疾患の特徴	小児理学療法の概容を知る 小児理学療法の対象となる疾患を知る						金子 満寛	
	2 正常運動発達、姿勢反射・反応(実技)	一般的な定形発達を知る 小児に特徴的な発達段階における姿勢反射を知る						金子 満寛	
	3 小児理学療法の実際	障害像の把握、問題点の抽出、理学療法計画策定の実際を知る						金子 満寛	
	4 ドュシャンヌ型筋ジストロフィーと理学療法	筋ジストロフィーの進行過程による病態の変化を知る ステージ別の理学療法を知る						金子 満寛	
	5 二分脊椎と理学療法	残存レベルによる病態の違いを知る 残存レベルに合わせた理学療法を知る						金子 満寛	
	6 小児痙縮の特徴 脳性麻痺概論	脳性麻痺を中心とした痙縮の特徴を知る 脳性麻痺のタイプ別特徴を知る						金子 満寛	
	7 脳性麻痺児の類型別運動発達と理学療法 片麻痺、痙直型両麻痺(実技)	脳性麻痺のタイプ別の運動発達を実技を通して知る						金子 満寛	
	8 脳性麻痺児の類型別運動発達と理学療法 痙直型四肢麻痺、アトーゼ型(実技)	脳性麻痺のタイプ別の運動発達を実技を通して知る						金子 満寛	
	9 重症心身障がい児者の概論	重症心身障がい児者について説明できる						鶴飼 宏和	
	10 重症心身障がい児者の評価と理学療法	重症心身障がい児者の評価と理学療法の実際を知る						鶴飼 宏和	
	11 重症心身障がい児者におけるライフステージ	重症心身障がい児者における各ライフステージの特徴を知る						鶴飼 宏和	
	12 筋ジストロフィー患者に対するリハビリテーション・ケーススタディ	筋ジストロフィーについて説明できる。 筋ジストロフィー患者に対する基本的な理学療法について説明でき、その実施の際に考慮すべき事項の一端を具体例の紹介を通して学ぶ。 臨床推論を通じて、治療の一端を学ぶ。						小川陽子	
	13 重症心身障がい児・者に対するリハビリテーション ケーススタディ	重症心身障がい児・者について説明できる。 重症心身障がい児・者に対する基本的な理学療法について説明でき、その実施の際に考慮すべき事項の一端を具体例の紹介を通して学ぶ。						山下 晃平	
授業形態	講義、実技								

授 業 要 項

教科書	小児理学療法学テキスト 改訂第3版,南江堂
参考書	特になし(必要に応じて適宜紹介)
評価方法	金子:筆記試験、授業態度 鶴飼:筆記試験(50%)、授業態度(50%) 小川:レポート 山下:レポート 授業時間数に応じて配分
授業時間外の学習	教科書の該当箇所目を通すなど事前学習を行い、講義後は配布資料や講義内容を元に復習を行うこと。 30分～1.5時間程度の事前・事後学習。
履修上の留意点	講義をよく聴き、予習・復習を怠らないこと。実技実習においては、実技実習ができる服装で参加する。 疾患の症状のみに目を奪われず、少しでも患者のADLやQOLまで視野を広げられるよう意識すること。
担当者の実務経験	病院勤務による理学療法実務経験あり

授 業 要 項

令和6年度

科目名	理学療法学特論			担当者	近藤 登、渡邊 潤子、細江 浩典 児島 久治、齋木 しゅう子、 加藤 倫卓、櫻井 博紀、塩田 真史				
学 年	3	学 期	前期	学 科	理学療学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	<p>PNFの上肢、下肢の基本パターンの一部ができるようになる 脳卒中片麻痺を中心とした中枢神経疾患の理学療法について歴史の変遷、脳卒中ガイドラインに基づくアプローチについて講義・実技を通して学習する。 理学療法における物理療法の位置づけや、物理的な刺激が生体に与える影響、物理療法の種類と、各々の使用法及び治療効果について理解する。マイオセラピーについて理解する。 地域で生活する障害児・者の現状と課題を理解する。 エネルギー摂取と代謝、運動負荷の関連性、代謝障害より引き起こされる病態の理解し、安全で有効な運動処方について学ぶ。 循環器疾患を引き起こす病態を理解し、理学療法評価項目および治療項目を挙げることができる。 慢性疼痛に対する理学療法に焦点をあて、慢性疼痛の基礎とその評価・治療について学ぶ。 スポーツ理学療法について学ぶ。</p>								
授業計画	テーマ			授業内容 [行動目標]				担当者	
4時間	1 PNFの上肢・下肢基本テクニックの学習 (実技)			動画視聴後にデモンストレーションを行う。その後グループで実技を行い、PNFの基本テクニック及び基本パターンを経験する。(上肢・下肢促通パターンの一部) [PNFの概念を説明でき、上肢・下肢の促通パターンの一部を行うことができる。]				近藤 登	
4時間	2 脳卒中ガイドラインをはじめとする急性期・回復期・維持期の理学療法の進め方(トピックスを含む)			脳卒中を中心とした中枢神経疾患に関する理学療法の歴史の変遷を文章で説明できる。基礎的事項として、中枢神経系の解剖学・生理学を文章で説明できる。 脳卒中ガイドラインにおける理学療法の内容を文章で説明できる。一部を健常者で実施できる。エビデンスに基づくアプローチを文章で説明できる。				渡邊 潤子	
4時間	3 理学療法・物理療法とは			1. 理学療法とは 2. 物理的とは 3. 物理療法の生理学的効果 4. 物理療法の適応と禁忌 5. 物理療法の種類 6. 物理療法各論 7. 実技				細江 浩典	
4時間	4 地域で生活する障害児・者の現状と課題			障害児・者の現状と課題を理解する。				児島 久治	
4時間	5 エネルギー代謝と運動負荷			同化・異化について説明できる。運動強度の違いによる、代謝過程の違いについて説明できる。糖尿病の病態、サルコペニアについて説明する事ができる。運動処方(FITT)について説明することができる。				齋木 しゅう子	
4時間	6 循環器疾患の病態生理、評価、治療			循環器疾患を持つ患者に対して、疾患に対する病態生理を把握し、治療プログラムの生理学的な背景を理解し、疾患に合わせた治療内容の選択ができるように学習する。また、治療上起こりうるリスク面と、その状態における安全確保について学習する。さらに、エビデンスのある理学療法項目に対して理解できるよう講義する。				加藤 倫卓	
4時間	7 慢性疼痛の基礎知識 慢性疼痛の評価 慢性疼痛の治療			慢性疼痛の病態を把握し、基礎知識を理解できる 慢性疼痛に対する評価を理解し説明できる 慢性疼痛に対する治療を理解し説明できる				櫻井 博紀	
2時間	8 スポーツ理学療法の考え方 スポーツ理学療法各論			スポーツ理学療法の考え方および各論について学ぶ。				塩田真史	

授 業 要 項

授業形態	近藤:実技(動画視聴、補足説明を加えながらのデモンストレーションの見学、各グループでの実技、個人への実技指導) 渡邊:講義、実技実習 細江:講義、実技実習 児島:講義 齋木(遠隔):講義、グループワーク 加藤:講義 櫻井:講義、グループワーク 塩田(遠隔):講義
教科書	配布資料 吉尾雅春:標準理学療法学 運動療法学総論 内部障害理学療法学 第2版 奈良勲 医学書院 2020
参考書	細田多穂他:理学療法ハンドブック改訂第3版 第2章 治療アプローチ 31章(PNF:基礎編、臨床編)、協同医書出版社 柳澤 健他:PNFマニュアル 改訂第3版、南江堂 柳澤 健他:PNFハンドブック 第4版、丸善出版 寛張秀樹:スポーツPNFハンドブック、南江堂 細田多穂 他編:理学療法ハンドブック 協同医書 p.337~403 日本脳卒中学会脳卒中ガイドライン委員会 脳卒中ガイドライン2021 協和企画 吉尾雅春 総監修 極める!脳卒中リハビリテーションの必須スキル 株式会社 gene 相澤純也 監修:クリニカルリーズニングで神経系の理学療法に強くなる 羊土社 原寛美 他編 脳卒中理学療法の理論と技術 メジカルビュー社 日本リハビリテーション医学会 リハビリテーション医療における安全管理・推進のためのガイドライン第2版 標準理学療法学 専門分野 物理療法学 第3版 医学書院 2008 物理療法学 第2版 金原出版 2012 理学療法学 ゴールト・マスター・テキスト3 第1版 物理療法学 メジカルビュー社 2009 理学療法学テキストⅡ 物理療法学 第2版 神陵文庫 2009 ベッドサイドの物理療法 第1版 医道の日本社 1991 リハビリテーション医学全書、物理療法学 第3版 医歯薬出版 1991 内部障害理学療法学テキスト 改訂第3版 南江堂 人体機能生理学 南江堂あるいは1年次使用の生理学教科書 目でみるからだのメカニズム 医学書院 病気がみえる vol.2 循環器 第4版、医療情報科学研究所メディックメディア、2017 田口敏彦/飯田宏樹/牛田享宏 監修:疼痛医学 医学書院 熊澤孝朗 監訳:痛み学 臨床のためのテキスト 名古屋大学出版会 松原貴子/沖田実/森岡周 著:ペインリハビリテーション 三輪書店 青木治人監 スポーツリハビリテーションの臨床、メディカルサイエンスインターナショナル
評価方法	近藤:授業出席点 渡邊:レポート課題(90%)グループ発表(実技も含む10%) 細江:論文(レポート) 児島:レポート 齋木:レポート 加藤:レポート 櫻井:レポート80% グループワーク20% 塩田:レポート 授業時間数に応じて配分
授業時間外の学習	近藤:事前に理学療法ハンドブックのPNFをよく読んで理解しておくこと。 渡邊:教科書の該当箇所に通すなど30分程度の事。前学習を行い、講義後は配布資料や講義内容を元に1.5時間程度の復習を行うこと。 齋木:事前に配付する資料について、内容を確認し不明な点は、事前学習としてノートにまとめます(1時間程度)。授業終了後には、ルーブリック評価表をもとに理解度が十分でない箇所を中心にノートにまとめ理解を深めます(1時間程度)。 加藤:予習に30分、復習に60分を行って授業を受講すること。 櫻井:関連項目に関して事前に参考書等で30分程度の事前学習を行い、講義後は配布資料や講義内容をもとに1.5時間程度の復習を行うこと。
履修上の留意点	近藤:事前に理学療法ハンドブックのPNF(生理学的機序)をよく読んで理解しておくこと。実技中心で行うので実技の出来る服装で授業を受けること。 渡邊:中枢神経系の解剖学、生理学、基礎運動学で学んだ内容について復習しておくこと。脳卒中片麻痺患者の理学療法について復習しておくこと。実技を行うので、実技実習できるように準備しておくこと。 細江:運動ができる服装、バスタオルおよびフェイスタオル持参 齋木:授業開始時ルーブリック評価表を提示します。それを活用し、授業終了後には理解度を確認して下さい。授業中解決できない内容については、終了後に質問し、解決するようにして下さい。 加藤:学習状況に応じて授業内容を柔軟に変更する。 櫻井:解剖学・生理学・運動学で学んだ内容を復習しておくこと。
担当者の実務経験	病院および施設による理学療法実務経験あり

授 業 要 項

令和6年度

科目名	理学療法学総合演習				担当者	中村 敦子、米田 愛、蕨野 博明			
学 年	3	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	理学療法を実施するために必要な医学の基礎から、専門分野までの知識を再確認・整理し、理解を深める。								
授業計画	テーマ				授業内容 [行動目標]			担当者	
	1 国家試験で問われる内容について知識を再確認・整理し、理解を深める				令和5年度の国家試験を活用し、問題の解釈の仕方、解答への導き方について必要な知識を確認し、解答に至るまでの過程を経験する。また、発表を通して、理解を深め、考え方を共有する。			中村 敦子 米田 愛 蕨野 博明	
	2 1年次から学習した内容を分野ごとに整理し、理解を深める				今まで学習した知識を振り返り、その分野における基礎的な知識やポイントを把握できる。また、発表を通じて、理解を深め、考え方を共有する。			中村 敦子 米田 愛 蕨野 博明	
	3								
	4								
授業形態	グループディスカッション、グループワーク、発表								
教科書	特になし								
参考書	PT/OT国家試験必修ポイント 専門基礎分野 基礎医学、臨床医学、基礎PT学、障害別PT治療学								
評価方法	筆記試験(80%)、授業への取り組み(20%)								
授業時間外の学習	知識の整理に繋がる分かり易い発表となるよう、十分な準備を行い、補足資料を作成すること。								
履修上の留意点	2年次までに学んだ知識・技術を整理し、実際に使える知識・技術として定着を図れるよう準備・実践すること。分かりやすい発表に努め、授業内でしっかり把握・理解できるよう集中して授業に臨むこと。また、発表で聞いた内容を資料に補足するなど努めること。								
担当者の実務経験	病院勤務による理学療法実務経験あり								

授 業 要 項

令和6年度

科目名	義肢装具学実習				担当者	小澤 義直、内藤 了彰			
学 年	3年	学 期	前期	学 科	PT	単位数	1	時間数	45時間

教育目標 [一般目標]	医療現場で保存療法として装具療法は多くの科に渡り使用されるようになっている。 この実習では現物に触れてもらい少しでも装具を身近に感じてもらい、活用方法を見出せるように義肢装具の種類と適応を学習して頂く。								
授業計画	テーマ		授業内容 [行動目標]				担当者		
4 月 8 日	1 装具総論		治療用装具と更生用装具の違いを理解し、それぞれの制度を説明できる				小澤 義直		
4 月 15 日	2 上肢装具/下肢装具/体幹装具		上肢装具・下肢装具・体幹装具の名称や機能を学ぶ				小澤 義直		
4 月 22 日	3 短下肢装具		短下肢装具の機能を学ぶ 短下肢装具体験				小澤 義直		
5 月 13 日	4 大腿義足/下腿義足/義足体験		義足を理解し模擬義足を装着し調整方法や特徴を学ぶ				小澤 義直		
5 月 20 日	5 義肢総論/筋電義手デモ		切断者に対するリハビリテーションを学ぶ 筋電義手ユーザーのDEMO見学				小澤 義直 内藤 了彰		
5 月 27 日	6 最新の短下肢装具		最新の短下肢装具を学ぶ・体験する				小澤 義直		
6 月 3 日	7 臨床での義肢装具士との関わり		グループワークを通じて臨床の義肢装具士との関りを学ぶ				小澤 義直		
6 月 10 日	8 臨床での義肢装具士との関わり		グループワークを通じて臨床の義肢装具士との関りを学ぶ				小澤 義直		
6 月 17 日	9 製作実習(採型)		リハビリテーションでよく使用されている短下肢装具を製作する				小澤 義直		
6 月 24 日	10 製作実習(製作)		リハビリテーションでよく使用されている短下肢装具を製作する				小澤 義直		
7 月 1 日	11 製作実習(製作物発表)		リハビリテーションでよく使用されている短下肢装具を製作する				小澤 義直		
授業形態	スライドによる講義と現物装着、製作、調整								
教科書	義肢装具のチェックポイント 第9版 医学書院								
参考書	義肢装具学								
評価方法	筆記試験 100%								
授業時間外の学習	グループワークの資料作り								
履修上の留意点	2年生時に、義肢装具の基礎を座学にて学習済みであり、3年の実習ではそれをベースに現物に触れてもらえるようになる。種類目的などは復讐されていることが望ましい。								
担当者の実務経験	病院勤務による実務経験あり								

授業要項

令和6年度

科目名	地域理学療法学			担当者	熊谷 泰臣、長屋 政博、宮寄 友和				
学年	3	学期	前期	学科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	<p>介護保険制度の概要を学習し、地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割と多職種協働について学習する。地域リハビリテーション、介護予防の現状を知る。 対象者とその家族の病態や状況、希望などに応じて、居住環境の物理的な制約条件を改善するために必要な、家屋評価の基礎、生活環境改善について考えることができる。</p>							
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]					担当者	
	1 介護保険制度の概要を学習し、地域リハビリテーションにおける理学療法士の役割と多職種協働について学習する	地域包括ケアシステム、地域リハビリテーション、介護保険の概要を理解する。回復期リハ、通所リハ、訪問リハ、介護老人保険施設の紹介から、地域活動における理学療法士の役割と、地域連携の中の医療介護連携の実際と課題について理解する。					熊谷 泰臣	
	2 地域理学療法学	地域リハビリテーションの流れ、現状の理解する。具体的な介護予防を理解する。					長屋 政博	
	3 住環境整備・福祉用具に関する制度 退院後の在宅生活について 住宅改修、福祉用具の知識	住環境整備・福祉用具に関する制度、疾患別・障害別にみた住環境整備の考え方を理解し、説明できる。また、理学療法士の視点から対象者の生活環境の問題点を指摘し、その解決方法が提案できる。住環境整備の進め方や基本技術および福祉用具の活用を理解し、説明できる。					宮寄 友和	
授業形態	講義、グループ発表							
教科書	特になし(配布資料)							
参考書	浜村 明徳、石川 誠、栗原 正紀、斉藤 正身 日本リハビリテーション病院・施設協会：高齢者リハビリテーション医療のグランドデザイン 青海社							
評価方法	熊谷：筆記試験、グループ発表 長屋：レポート 宮寄：レポート 授業時間数に応じて配分							
授業時間外の学習	授業後、資料を見直す等、30分程度の復習をすること。 講義後に配布資料・講義内容を元に復習を行いレポートにまとめる。							
履修上の留意点	グループで考えて発表する。発表形式は自由。 講義中に分からない内容があればその場で質問すること。問いに対し挙手にて発言する等、授業に主体的に参加すること。							
担当者の実務経験	病院勤務による実務経験あり							

授 業 要 項

令和6年度

科目名	地域理学療法学演習			担当者	鳥山 喜之、熊谷 泰臣、平工 実奈子、 中村 敦子、蕨野 博明				
学 年	3	学 期	前期	学 科	理学療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	<p>理学療法士が、勤務している訪問リハビリテーション・通所リハビリテーション及び通所介護における理学療法士の業務を理解することにより、地域での理学療法士の関わり方や役割を学ぶ。 回復期から生活期に関する事業、及び予防事業(二次予防事業)の一部を見学する。 発達障害の地域療育支援事業について、理学療法士をはじめ支援に関わっている様々な専門職の実践活動を理解する。対象者が自己発揮し生きやすくなるために、支援に関わっている専門職が、家族・行政・保育者・教師等とどのように連携・協業していくことができるか考える。 地域リハビリテーションに関わる用語について説明できる。 地域リハビリテーション施設の見学を通じ、そのシステム、PTの関わりを考える。 産業保健に対する理学療法および健康維持・増進における理学療法士の関わりについて理解する。</p>							
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]					担当者	
	1 少子超高齢化問題 地域包括ケアシステム リハビリテーションの流れ 地域連携の重要性 通所介護と通所リハビリテーション 訪問リハビリテーションと通所リハビリテーション 通所介護リハピネス梅森坂見学	<p>我国の高齢化社会像のあり方について理解する。 医療・介護の連携について学ぶ。 急性期・回復期・生活期リハビリテーションの役割について学ぶ。 地域連携バスやカンファレンス、サービス担当者会議の意義と役割について学ぶ。 通所介護と通所リハビリテーションの違いについて学ぶ。 訪問リハビリテーションと通所リハビリテーションの役割について学ぶ。 理学療法士の利用者に対する役割を理解する。</p>					鳥山喜之	
	2 医療法人財団善常会における回復期リハビリテーション病棟、通所リハビリテーション、老人保健施設等を見学し、理学療法士の役割を理解する	<p>医療法人財団善常会における回復期リハビリテーション病棟から、通所リハビリテーション、老人保健施設を見学し、実際の現場のしくみから理学療法士の業務および活動を見学し、その後に意見交換をして、理解を深める。</p>					熊谷 泰臣	
	3 発達障害について 発達性協調運動障害について 地域療育支援事業について 多職種連携について	<p>発達障害・発達性協調運動障害について説明することができる。 地域療育支援事業について説明することができる。 対象者に関わる専門職について学び、理学療法士としての役割について説明することができる。</p>					平工実奈子	
	4 地域リハビリテーションにかかわる理学療法士の役割 産業理学療法と健康維持・増進活動	<p>地域リハビリテーションにかかわる理学療法士の役割について説明できる 産業理学療法と健康維持・増進活動について説明できる 善常会リハビリテーション病院、リハピネス梅森坂の見学準備および発表準備、発表を行う。</p>					中村 敦子	
	5 国際協力・青年海外協力隊について (見学実習)	<p>国際協力、青年海外協力隊の活動について理解する。 所在地: JICA中部 なごや地球ひろば 〒453-0872 名古屋市中村区平池町4丁目60-8</p>					蕨野 博明	
授業形態	講義、見学、意見交換会、ディスカッション、グループ発表							
教科書	資料を配付							

授 業 要 項

<p>参考書</p>	<p>理学療法ジャーナル 2012年 10月号 地域包括ケアシステムと訪問理学療法 医学書院 子育て支援と心理療法Vol.15,June,2018,福村出版 細田多穂 監修:地域リハビリテーション学テキスト,南江堂 浅川康吉 編集:Crosslink 理学療法学テキスト 地域理学療法学,メジカルビュー JICAなごや地球広場ホームページ https://www.jica.go.jp/nagoya-hiroba/</p>
<p>評価方法</p>	<p>鳥山:レポート 熊谷:レポート 平工:レポート 中村・蕨野:レポート、発表、見学出席点 授業時間数に応じて配分</p>
<p>授業時間外の学習</p>	<p>事前に配布した資料を目を通すこと</p>
<p>履修上の留意点</p>	<p>見学中、高齢者の尊厳を尊ぶこと 我が国の少子超高齢化問題について理解しておくこと 地域包括ケアシステムについて理解しておくこと 集合時間に遅れないように集合し、静粛な見学に心掛けること。 講義中に分からない内容があればその場で質問すること。授業に主体的に参加すること。 善常会リハビリテーション病院およびリハピネス梅森坂の見学はグループごとに行い、見学に行かないグループは学院にて中村担当の授業となります。</p>
<p>担当者の実務経験</p>	<p>病院勤務による実務経験あり</p>

授 業 要 項

令和6年度

科目名	社会福祉学				担当者	添田 正揮 垣内 泰二 増田 美穂子 船橋 良太 梅田 雄嗣			
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	患者、利用者、家族の立場に立って、社会保障・社会福祉の歴史、現状、今日的課題、今後の課題等を学ぶ。 障害者総合支援法の実際について理解し、作業療法に関連する法規・制度について必要な知識を整理することができる。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]					担当者		
	1 総論 I 日本の社会保障制度の概要 ・国民生活と社会保障(1-2)	ライフサイクルとライフステージごとの社会保障を理解する。					添田 正揮		
	2 総論 I 日本の社会保障制度の概要 ・社会保障制度の変遷(3-6)	戦後から現在までの社会保障制度の変遷を理解する。					添田 正揮		
	3 総論 II 日本の社会保障を取り巻く環境 ・人口構造の変化(少子高齢化)(1-3)	少子高齢化を含む人口構造の変化と社会保障との関係や問題を理解する。					添田 正揮		
	4 総論 II 日本の社会保障を取り巻く環境 ・構造の変化(4-7)	日本のさまざまな構造の変化を理解する。					添田 正揮		
	5 総論 II 日本の社会保障を取り巻く環境 ・増加する社会保障給付と制度改革(8-13)	社会保障給付の負担と社会保障制度改革を理解する。					添田 正揮		
	6 各論 I 社会福祉 ・公的扶助(生活保護)(1-3)	生活保護を中心とした生活困窮者に対する支援を理解する。					添田 正揮		
	7 各論 I 社会福祉 ・高齢者施策(権利擁護、保健福祉、介護保険、認知症)(4-8)	高齢者保健福祉の変遷と介護保険制度、認知症施策、権利擁護を理解する。					添田 正揮		
	8 各論 I 社会福祉 ・子育て施策(保育、母子保健、育児休業)(9-17)	保育、手当、母子保健、育児休業を中心とした子育て支援を理解する。					添田 正揮		
	9 各論 I 社会福祉 ・障害者施策(障害者基本法、障害者総合支援法、保健福祉、虐待)(18-25)	障害保健福祉の変遷と障害者基本法、障害者総合支援法、虐待防止を理解する。					添田 正揮		
	10 年金について	年金制度の概要、仕組みについて学ぶ。					垣内 泰二		
	11 各論 II 保健医療 ・医療保険制度、高齢者医療制度(1-15)	医療保険制度、高齢者医療制度を中心とした保健医療の概要を理解する。					増田 美穂子		
	12 各論 III 年金・労働保険 ・年金制度、労働保険制度(1-8)	年金制度、労働保険制度の概要を理解する。					増田 美穂子		
	13 保健・医療・福祉の連携および今後の課題	保健・医療・福祉の連携および今後の課題を理解する。 東名古屋病院での連携の実際を学ぶ。					船橋 良太		
	14 障害者総合支援法の実際 ①地域生活移行支援 ②就労支援	症例検討を通して、各法律や制度の関連性、実際の活用方法について理解することができる。					梅田 雄嗣		
	15 作業療法に関連する法規・制度	障害者総合支援法を中心として、国家試験で必要となる知識について整理することができる。					梅田 雄嗣		

授業形態	講義、グループワーク、発表
教科書	社会保障入門2024 中央法規出版
参考書	適宜紹介する。
評価方法	レポート、発表など。 添田(36点)、垣内(2点)、増田(22点)、船橋(9点)、梅田(31点)
授業時間外の学習	症例検討では、発表にむけたレジュメの作成を行う。 講義後は配布資料や講義内容を元に30分程度の復習を行うこと。
履修上の留意点	授業に際し能動的に参加すること 2年次に学習した地域作業療法学、精神障害作業療法治療学をふまえ、職業関連活動や地域作業療法学演習とも連動しながら授業が行われることを念頭に置き、法規・制度に関連する授業資料を活用しながら臨むこと。

授 業 要 項

令和6年度

科目名	作業療法実践論			担当者	水野 準也 藤部 百代				
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	作業療法実践の意味と根拠を示す理論や枠組みについて学ぶ。また、作業の意味を理解し、代表的な作業の作業分析について学ぶ。								
授業計画	テーマ		授業内容 [行動目標]				担当者		
	1 作業療法の理論について(総論)		理論について理解することができる。 作業療法の理論の必要性和意義について理解することができる。 作業療法の理論の背景と発展について理解することができる。 作業療法の理論と臨床実践について理解することができる。 作業療法の理論の分類について理解することができる。				藤部 百代		
	2 作業療法の理論について(各論)		以下の作業療法の各種理論について理解することができる。 ①人間作業モデル ②作業科学 ③作業遂行と結びつきのカナダモデル ④生活行為向上マネジメント ⑤その他の理論				水野 準也 藤部 百代		
3 臨床的枠組み		以下について基本的事項を理解したうえで、臨床での活用・応用について説明することができる ①レクリエーション ②作業遂行分析(AMPS)				藤部 百代			
授業形態	講義、グループ討議、発表								
教科書	標準作業療法学 作業療法学概論 第3版 医学書院								
参考書	適宜紹介する。								
評価方法	期末試験(筆記試験):100点(藤部77点、水野23点)								
授業時間外の学習	授業前には、各単元の内容を理解するために必要と思われる知識の確認を行うこと。授業後には、講義内容を整理し曖昧な点は明確にしておくこと。								
履修上の留意点	本科目は、1年次の作業療法概論をはじめ様々な科目で学習した内容や、臨床実習での経験をもとに授業が展開されることを留意して臨むこと。								
担当者の実務経験	病院での作業療法に従事								

授 業 要 項

令和6年度

科目名	作業療法特論			担当者	水野 準也 濱川 麻美				
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	<ul style="list-style-type: none"> ・実習や国家試験に向けて、今まで学習した内容について、専門基礎分野(解剖学および生理学、疾患学)と専門分野(治療学)の繋がりをふまえ、知識の整理をすることができる。 ・国家試験問題に触れ、実際にどのような問題が出題されているか知ることができる。 ・グループワークや発表を通して、内容の理解を深めることができる。 							
授業計画	テーマ		授業内容 [行動目標]				担当者	
	1	第59回作業療法士国家試験問題 (AM・PM)	第59回作業療法士国家試験問題を実際に解き、自己の到達度を把握し、苦手分野を知ることができる。				水野準也 濱川麻美	
	2	解剖学・生理学 中枢神経系 <ul style="list-style-type: none"> ・髄膜と脳脊髄液 ・脳の外部構造と内部構造 ・脳の立体的構造と機能 大脳の機能局在 <ul style="list-style-type: none"> ・伝導路 ・脳動脈の走行 中枢神経障害に関する脳画像 <ul style="list-style-type: none"> ・脳画像の基本的な見方 ・脳画像の障害部位と症状 	教員からのポイントレクチャーをもとに、解剖学・生理学に関する基礎知識を自ら整理・学習し、理解することができる。				水野準也 濱川麻美	
授業形態	教員によるポイント講義、グループ学習など							
教科書								
参考書	適宜							
評価方法	筆記試験: 中間テスト(50点)、最終テスト(50点)							
授業時間外の学習	本授業をもとに、理解不十分である学生は週1回程度の学習会に参加し、理解を深めること。その学習会での状況によっては土曜登校といった個別対応がある。解剖学・生理学を中心とした基礎知識の学習をこまめに行うこと							
履修上の留意点	実習や国家試験に向けて、今までに学んだ知識の整理を実施する。なお、詳しくはオリエンテーションで伝えるが、3月に実施した専門基礎3科目模試の結果に従ってグループ分けをし、グループに合わせて理解を深めていく。本授業においては、解剖学・生理学に関する基礎知識の理解を到達レベルとするため、各自が主体的に取り組むこと。							
担当者の実務経験	病院での作業療法に従事							

授業要項

令和6年度

科目名	作業療法研究法				担当者	水野 準也 OT教員			
学年	3	学期	前期	学科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作業療法士が行う研究方法を学ぶ。 2. 研究を行う上で基本的な手続きを理解し、それをグループで実施する。 3. 学んだ知識を用いて、実際にグループで研究テーマを決め、データを分析し論文を完成させる。 (卒業論文として完成させ製本する) 								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 「研究」について(総論)	研究の目的や意義を理解することができる。 研究の種類・分類について理解することができる。 研究の流れを説明することができる。 研究疑問について理解することができる。 研究計画の立案から計画書作成、実験の実施、報告および発表における留意点を理解できる。 研究のデザインについて理解することができる。						水野 準也	
	2 研究計画書・インフォームドコンセント・研究同意書について	研究計画書の作成方法を理解および説明することができる。 インフォームドコンセントについて理解することができる。 研究同意書の作成方法を理解および説明することができる。						水野 準也	
	3 研究計画書発表	各グループで作成した研究計画書を発表することができる。						水野 準也 OT教員	
	4 グループワーク指導(全8回)	指定されたテーマに関し、担当教員よりグループで指導を受け、研究計画を立案し、実験の実施・分析・考察を踏まえ、論文を作成することができる。						OT教員	
授業形態	講義およびグループ討議を主とする。学習資源としてパワーポイントを使用する。								
教科書	作業療法士のための研究法入門 鎌倉矩子 他 三輪書店								
参考書	適宜紹介する。								
評価方法	研究計画書(発表を含む)および研究結果の提出とその内容; 100点								
授業時間外の学習	本授業をもとに、事業時間外においてグループで討議し、主体的に進めることを望む。								
履修上の留意点	決められたグループで研究を実施する。その結果を卒業論文として完成することが課題である。なお、前期に研究計画を発表し、実験を行い、後期においては卒業論文を発表する機会を持ち、プレゼンテーションを実施する。グループ内で合意形成しながら研究を進めること。								
担当者の実務経験	病院での作業療法に従事、研究活動の実務経験あり								

授 業 要 項

令和6年度

科目名	作業療法管理学Ⅱ			担当者	平松 敦子 藤部 百代				
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	15

教育目標 [一般目標]	関連法制度(医療保険制度・介護保険制度等)、診療報酬制度、個人情報の取り扱いなどをもとに、作業療法マネジメントを学ぶ。 作業療法教育の基本についての現状を把握する。							
授業計画	テーマ			授業内容 [行動目標]			担当者	
	1 管理学総論 作業療法におけるマネジメント 作業療法と組織			作業療法におけるマネジメントの概要について理解できる。 組織およびその中における作業療法について理解できる。			藤部 百代	
	2 業務管理 施設基準・診療報酬・介護報酬 書類管理・カンファレンス			作業療法の職場管理において求められる業務管理の基本について理解できる。			藤部 百代	
	3 リスク管理			作業療法の職場管理において求められるリスク管理の基本について理解できる。			平松 敦子	
	4 教育・人事管理 作業療法の教育制度 ・卒前教育 (養成施設と資格、臨床実習) ・卒後教育 (生涯教育制度、 臨床実習指導、研修・研究) 職員教育、倫理、 ハラスメント、メンタルヘルス			作業療法の職場管理において求められる人事管理の基本について理解できる。			平松 敦子	
	5 設備・備品・消耗品・作品管理			作業療法の職場管理において求められる物品管理の基本について理解できる。			藤部 百代	
	6 記録管理			作業療法の職場管理において求められる情報管理の基本について理解できる。			藤部 百代	
授業形態	講義およびグループ討議を主とする。							
教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論							
参考書	適宜紹介する。							
評価方法	期末試験(筆記試験):100点(平松45点、藤部55点)							
授業時間外の学習	授業前後に30分程度の学習を行うこと。							
履修上の留意点	この授業は作業療法の職場管理において求められる管理業務と臨床教育の基本について学ぶ。そのため、作業療法概論や作業療法管理学Ⅰで学んだことや、臨床実習で経験したことをふまえて、つながりをもって学習に臨むこと。							
担当者の実務経験	病院での作業療法に従事							

授 業 要 項

令和6年度

科目名	身体障害作業療法治療学演習Ⅱ			担当者	棚瀬 智美 平松 敦子				
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	身体障害分野の対象者に対する作業療法の特性を生かした治療・指導・援助の実践における注意点を理解する。また、模擬症例を通して対象者の全体像を把握し、焦点化、目標設定を行った上で、治療計画の立案まで行う過程を理解を深める。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 症例検討①	<ul style="list-style-type: none"> ・一般・医学的・社会的情報から障害像をイメージし、評価計画を立案し説明することができる ・作業療法評価結果からADLを分析し、問題点を列挙することができる ・治療目標(長期・短期)を設定し、OTプログラムを考案することができる 症例検討①: グループ検討を中心に進め理解を進める 症例検討②③: 検討すべき項目はグループ検討していくことで考え方を深める。患者情報の検討～目標設定までは、最終的に個別課題としてまとめ提出する 症例検討④: 患者情報の検討～治療プログラムの立案までを個別課題として進め提出する						平松 敦子 棚瀬 智美	
	2 症例検討②								
	3 症例検討③								
	4 症例検討④								
授業形態	講義、演習(症例検討・文献抄読)、グループ討議および発表								
教科書	メディカルスタッフのための神経内科学(医歯薬出版) 身体障害作業療法学ゴールドマスターテキスト(メジカルビュー) 病気がみえる 循環器、呼吸器(メディックメディア)								
参考書	脳卒中 基礎知識から最新リハビリテーションまで(医歯薬出版)								
評価方法	症例ごとの課題の提出と到達度で採点								
授業時間外の学習	授業前には関連科目の復習を行い、授業後には行動目標が達成できるよう復習を行うこと。								
履修上の留意点	既習内容を十分に確認して授業に臨むこと								
担当者の実務経験	病院で身体障害の作業療法に従事								

授 業 要 項

令和6年度

科目名	精神障害作業療法治療学演習Ⅱ				担当者	榊原 崇記 水野 準也 梅田 雄嗣			
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	精神科作業療法における治療の場、対象者、治療構造のイメージをもつことができる。 精神科作業療法における観察ポイントに応じた観察とその記録の体験ができる。 精神障害者の全体像を捉え、作業療法過程(治療計画立案まで)について理解することができる。 地域生活支援における作業療法の実際について理解することができる。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]					担当者		
	1 精神障害分野の特性 ①治療の場、機能・役割 ②治療(構造、内容、自己の治療的活用) ③対象者	精神障害分野の特性について、イメージをもつことができる。					水野 準也		
	2 精神科作業療法における観察と記録	観察ポイントに応じた観察とその記録の体験を行うことができる。					水野 準也		
	3 精神障害者の全体像の把握および臨床思考過程	治療計画について治療計画の項目とその詳細(作業、OTRの関わり方、集団、場所、時間・頻度・期間)を理解することができる。 作業療法の一連の実践課程(情報収集、評価、評価のまとめ、焦点化、目標設定、治療計画立案、治療実施)の流れを理解することができる。					梅田 雄嗣		
	4 地域作業療法の実践 ACT支援の実際	ACT支援における取り組みの実際を知り、地域生活を送る精神障害者に対する作業療法士の役割について理解することができる。					榊原 崇記		
授業形態	講義、演習(観察・症例検討)、グループ討議および発表								
教科書	山根 寛：精神障害と作業療法 治る・治すから生きるへ 第3版 富岡 詔子・小林 正義：作業療法学全書 改訂第3版 作業治療学2 精神障害								
参考書	適宜紹介する。								
評価方法	榊原：レポート(7点)、水野：レポート等提出物(60点)、梅田：症例発表レジュメおよび発表内容(33点)								
授業時間外の学習	症例検討等において発表にむけたレジュメの作成を行う。								
履修上の留意点	精神障害作業療法評価学、作業療法評価学演習、精神障害作業療法治療学、精神障害作業療法治療学演習Ⅰで学んだ内容をもとに授業が展開されることを念頭において臨むこと。								
担当者の実務経験	病院で精神障害領域の作業療法に従事								

授 業 要 項

令和6年度

科目名	高齢期作業療法治療学演習			担当者	青山 幸恵 奥村 智子	山内 正美 棚瀬 智美	平塚 典子 智美		
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	高齢期作業療法のプロセスを理解し、高齢期の特徴に応じた支援内容について学ぶ。 認知症高齢者の障害像を理解し、その人らしさを引き出し活用するアプローチ方法についての知識を身につける。 摂食嚥下の機能及び障害に関する基本的事項、評価や検査、訓練について理解し、摂食嚥下リハビリテーションのチーム医療において、OTとしてどんな介入方法があるのか基本的知識を身につける。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]					担当者		
	1 介護保険制度	介護保険制度における各サービスの目的や内容について理解することができる。					棚瀬 智美		
	2 高齢期作業療法の実践課程 評価、目標設定、治療計画、実施	高齢期作業療法の実践課程(評価～治療実施)について理解することができる。							
	3 症例検討①(高齢期)	生活期における症例を通して、作業療法の目標設定、生活上の問題点列挙、具体的支援内容を立案し説明することができる。							
	4 認知障害	認知障害の定義、障害状況にあった対応について理解し説明することができる。							
	5 症例検討②(認知症)	症例を通し、認知高齢者の障害像を理解し説明することができる。 症例の障害像や人となりに合わせたアプローチ法を考え、その効果について理解し説明することができる。							
	4 高齢者における整形外科・脳外科疾患	高齢者に多い整形外科疾患と脳外科疾患の原因について理解し説明することができる 高齢者の整形外科疾患・脳外科疾患後に対するOTプログラムの考え方や予防目的のリハビリテーションについて理解し説明することができる					青山 幸恵		
	5 介護老人保健施設とOTの役割	介護老人保健施設の実際について、施設の役割や概況、施設概要について知識と理解を深めることができる。 老人保健施設での作業療法士の役割を理解することができる。					平塚 典子		
	6 訪問リハビリテーションの実際	訪問リハビリテーションに関する作業療法の取り組みについて知り、訪問リハビリテーションにおける地域での作業療法士の役割を理解することができる。					山内 正美		
	7 ・摂食嚥下とは何か ・摂食嚥下障害の病態、原因、検査・評価、リハビリテーションについて	・摂食嚥下障害に関係する諸器官の解剖・生理について理解し、基本的なメカニズムについて説明できる。 ・摂食嚥下機能の検査、診断、評価からリハビリテーション方法の概要、チーム医療について理解する。					奥村 智子		
授業形態	講義 演習								
教科書	老年期作業療法学(ゴールドマスターテキスト)/メジカルビュー社								
参考書	適宜紹介する。								
評価方法	レポート:棚瀬(66.7%)、平塚(6.7%)、青山(13.3%)、山内(6.7%)、奥村(6.7%)								
授業時間外の学習	授業前には関連科目の復習を行い、授業後には行動目標が達成できるよう復習を行うこと。								
履修上の留意点	高齢期作業療法治療学、地域作業療法学等の履修内容が基礎となっていることを理解し講義に臨むこと。								
担当者の実務経験	病院での作業療法および言語聴覚療法に従事								

科目名	発達障害作業療法治療学				担当者	加賀谷 繁 棚瀬 智美	藪押 佐永巳 松原 健	浅野 京子 成瀬 智将	
学年	3	学期	前期	学科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	発達障害分野のOTについて臨床での事例を通して評価から治療の流れ、治療の組み立て方について学ぶ。 脳性麻痺の様々な機能障害から生活障害を知り、それに対しての治療ができるように類型別の発達障害の特徴を理解し援助が行えるよう知識を深める。 重症心身障害児(者)について理解と援助ができる。 筋ジストロフィーの病態と症状、障害像を理解し、作業療法の目的と介入方法を理解する。 知的障害児(者)について理解と援助ができる							
授業計画	テーマ		授業内容 [行動目標]				担当者	
	1	脳性麻痺の概要・総論	脳性麻痺における臨床像について理解することができる				加賀谷 繁	
		脳性麻痺の各論	脳性麻痺の類型別に障害特性を理解することができる					
	2	脳性麻痺児アトニー型の臨床像の理解	アトニー型の特徴を知り、臨床症状と結びつけ理解することができる。				加賀谷 繁	
		脳性麻痺児アトニー型の治療と援助の理解	ビデオ症例から問題点の抽出と具体的な治療場面をグループで検討し治療的思考過程を理解する。					
	3	重症心身障害児(者)	重症心身障害児(者)の理解が深まる。				松原 健 成瀬 智将	
		重症心身障害児(者)のポジショニング	ポジショニングの理解が深まる。					
		摂食・嚥下障害	摂食・嚥下障害について理解が深まる。					
	4	筋ジストロフィーの病態と症状	筋ジストロフィーの病態と症状について説明できる 筋ジストロフィーの障害像について説明できる				棚瀬 智美	
		筋ジストロフィーの作業療法	作業療法の目的、評価項目、介入方法を説明できる					
	5	発達障害児に対する治療計画	治療目標の設定、段階づけを理解する。				藪押 佐永巳	
		発達障害児に対する治療の実際	ビデオを用いて症例の問題点の整理と治療プログラムの立案を行う。					
	6	知的障害の概要・総論・アプローチ	知的障害における臨床像を理解し、基本的なアプローチについて理解することができる				浅野 京子	
		児童発達支援に関するOT	取り組みの実際を通して、子どもに対する支援と地域における作業療法士の役割を理解することができる。					

授 業 要 項

授業形態	講義 グループワーク グループ発表 実習
教科書	福田美恵子編:標準作業療法学 発達過程作業療法学 医学書院 病気がみえる 脳・神経 配布資料
参考書	小西紀一監修、小松則登編集:発達OTが考える子どもセラピィの思考プロセス メジカルビュー 小西紀一編集:子どもの能力から考える発達障害領域の作業療法アプローチ 奈良勲 鎌倉矩子監修: 人間発達学 医学書院 矢谷令子監修:標準作業療法学 作業療法評価学 医学書院 Karel Bobath著:脳性麻痺の運動障害 医歯薬出版 Berta & Karel Bobath原著:脳性麻痺の類型別運動発達 医歯薬出版 岩崎清隆ら著:発達障害と作業療法(実践編) 三輪書店 岡田喜篤監修:重症心身障害療育マニュアル 医歯薬出版 その他、講義内で紹介する。
評価方法	レポート、発表、感想文等:加賀谷(40点)、藪押(20点)、松原・成瀬(20点)、浅野(13点)、棚瀬(7点)
授業時間外の 学習	加賀谷:配布資料や授業でのビデオ症例を基に問題点の抽出と具体的な治療場面をグループワークし、 まとめる。 藪押:講義の際に不足を感じた知識について学習を行うこと。 浅野:講義前に児童発達支援について制度を学習し、講義後は配布資料と講義内容を元に復習する。 松原・成瀬:解剖学や運動学、評価学などを復習すること。
履修上の 留意点	加賀谷:人間発達学・運動学・解剖学・発達障害関係の授業内容を十分復習しておくこと。 藪押:運動機能、認知機能、言語機能など様々な機能の発達がどのように関係しているかを復習して おくこと。
担当者の 実務経験	病院で発達障害領域の作業療法に従事

科目名	高次脳機能障害作業療法治療学				担当者	渡邊 依里子 濱川 麻美			
学年	3	学期	前期	学科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	高次脳機能障害の基本的概念・臨床像を踏まえた上で、評価および介入方法について学ぶ。 失語症を理解するために必要な基礎的な神経心理学的知識を踏まえた上で、失語の症状、失語症候群、評価および介入方法について学習する。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]				担当者			
	1 高次脳機能障害とは	<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害の基本的概念と対象疾患・障害について説明できる。 ・高次脳機能障害の評価について基本的な考え方を説明できる。 ・高次脳機能障害の治療について基本的な考え方を説明できる。 				濱川 麻美			
	2 失行について	<ul style="list-style-type: none"> ・失行の概念・症状・分類について説明できる。 ・失行の評価内容と手順を説明できる。 ・失行の訓練の基本原則について説明できる。 				濱川 麻美			
	3 失認について	<ul style="list-style-type: none"> ・失認の概念・症状・分類について説明できる。 ・失認の評価内容と手順を説明できる。 ・失認の訓練の基本原則について説明できる。 				濱川 麻美			
	4 半側空間無視について	<ul style="list-style-type: none"> ・半側空間無視の定義・症状について説明できる。 ・半側空間無視の評価内容と手順を説明できる。 ・半側空間無視の訓練の基本原則について説明できる。 				濱川 麻美			
	5 記憶障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・記憶障害の定義・分類について説明できる。 ・記憶障害の評価について説明できる。 ・記憶障害の訓練の基本原則について説明できる。 				濱川 麻美			
	6 注意障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・注意障害の定義・分類について説明できる。 ・注意障害の評価について説明できる。 ・注意障害の訓練の基本原則について説明できる。 				濱川 麻美			
	7 遂行機能障害について	<ul style="list-style-type: none"> ・遂行機能障害の定義・分類について説明できる。 ・遂行機能障害の評価について説明できる。 ・遂行機能障害の訓練の基本原則について説明できる。 				濱川 麻美			
	8 成人コミュニケーション障害の概論	成人における他のコミュニケーション障害と失語症との違いについて理解する。				渡邊 依里子			
	9 失語症の言語症状、下位タイプ、評価方法について	失語症の症状、下位タイプを理解し、評価方法を学ぶ。				渡邊 依里子			
	10 失語症患者とのコミュニケーションについて	失語症者とのコミュニケーション方法を学び、その工夫について考える。				渡邊 依里子			
11 国家試験対策	失語・高次脳機能領域の解説(脳画像を含む)				渡邊 依里子				

授 業 要 項

授業形態	講義、演習
教科書	標準作業療法学 専門分野 高次機能障害(医学書院)
参考書	作業療法学全書 作業治療学5 高次脳機能障害(協同医書) 高次脳機能障害の作業療法(三輪書店) 高次脳機能障害学 第2版(医歯薬出版)
評価方法	期末試験(筆記試験);濱川 90点 レポート;渡邊 10点
授業時間外の学習	配布資料を事前に読んでおくこと。
履修上の留意点	症状－評価－介入を、結びつけながら理解するように努めること。
担当者の実務経験	病院で身体障害領域の作業療法および言語療法に従事

科目名	義肢装具学			担当者	棚瀬 智美 中村 敦子 川瀬 翔太				
学年	3	学期	前期	学科	作業療法学科	単位数	1	時間数	15

教育目標 [一般目標]	上下肢装具の基本構造と目的を理解し、障害に対する適応を考える。 切断と義手および切断者に対する作業療法プログラムについて理解し説明することができる。 義足および切断者に対するリハビリテーションについて理解する。							
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]					担当者	
	装具の概要 1 装具の分類と種類、代表的な上肢体幹装具	<ul style="list-style-type: none"> ・装具とスプリントの相違について説明することができる。 ・装具の分類と種類について説明し、代表的な上肢体幹装具を挙げることができる。 ・部位別に適応するスプリントを列挙することができる。 					棚瀬 智美	
	2 下肢装具・歩行補助具	下肢装具の種類、対象、目的、構造、機能、使用時の注意点について説明できる。 歩行補助具の役割について説明できる。					中村 敦子	
	3 切断の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・切断者の概要、原因、最近の傾向について理解および説明することができる。 ・断端とは何か理解し、ケアについて理解し説明することができる。 ・切断・離断部位の機能的特徴について理解および説明することができる。 					棚瀬 智美	
	4 切断術後の義肢装着法について	<ul style="list-style-type: none"> ・義肢装着時期・装着法について理解および説明することができる。 ・切断の原因疾患についての特徴や障害像など理解し説明することができる。 					棚瀬 智美	
	5 義手について	<ul style="list-style-type: none"> ・義手の分類と基本的構成要素について理解および説明することができる。 ・ソケット・手先具・継手・ハーネス・制御装置の種類や特徴・機能について理解および説明することができる。 ・切断レベル別に義手の種類をあげることができる。 					棚瀬 智美	
	6 切断者に対する作業療法プログラムについて	義手装着前訓練のリハビリの流れについて理解することができる。 義手の操作方法について理解することができる。					棚瀬 智美	
	義足について 7 義足装着者に対するリハビリテーションおよびADL指導について	義足についての概略を説明できる。 義足装着者のリハビリテーションおよびADL指導について説明できる。					川瀬 翔太	

授 業 要 項

授業形態	講義、グループ討議など
教科書	義肢装具学(作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト) メジカルビュー社
参考書	義肢装具のチェックポイント 第8版 医学書院 義肢装具と作業療法 ～評価から実践まで～ 医歯薬出版 切断と義手第2版 医歯薬出版株式会社 医歯薬出版株式会社 義肢学 第3版 日本義肢装具学会
評価方法	筆記試験: 棚瀬(70点)、中村(13点)、川瀬(7点)
授業時間外の学習	中村・川瀬: 棚瀬教員担当分で履修する切断者の概況について復習しておくこと。
履修上の留意点	棚瀬: 授業で学んだ範囲を復習しておくこと。
担当者の実務経験	病院で作業療法および理学療法に従事、病院勤務による実務経験あり

科目名	義肢装具学 演習				担当者	三重野 高広 鈴木 隆英 奥村 修也 小澤 義直 内藤 了彰 藤部 百代			
学年	3	学期	前期	学科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	義肢装具の基本構造と目的を理解した上で、疾患別の装具やスプリントの適応について学ぶ。 上肢切断者の義手の評価及びリハビリテーション訓練(身体計測、種類、名称と構造、操作方法、職場復帰などに関して)について学ぶ。 手の治療に使用するスプリントの作製手順を理解し身につけ、スプリントを使用する適応や目的についても学習を深め、手の機能・疾患・障がいの見識を深める。								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 疾患別主要装具・スプリント	疾患別(末梢神経損傷、関節リウマチ、脳血管疾患、脊髄損傷、熱傷、腱断裂、骨折、体幹固定装具)などの主要装具の目的や適性を理解することができる						藤部 百代	
	2 上肢切断者の評価、義手装着訓練	切断者のリハビリテーションの意味、義手使用の目的を理解する。						中村 恵一	
	3 能動義手の訓練	能動義手の種類の名称・構造・装着方法、一般的な操作の仕方、ADL、職場活用を理解する。						中村 恵一	
	4 筋電義手の訓練	筋電義手の種類の名称・構造・装着方法、一般的な操作の仕方、ADL、職場活用を理解する。						中村 恵一	
	5 能動義手評価(チェックアウト)演習	能動義手評価としてデモ義手装着し、チェックアウトを行い、意味、方法を義手の構造の理解とともに深める。						中村 恵一 佐藤 努	
	6 臨床におけるスプリントの使用と療法について	臨床でスプリントがどのように使用されているか、その意義や目的を踏まえてを提示する。						奥村 修也	
	7 基本的なスプリントの作製手技の紹介(導入)	直接法(ピンチ法・ドレープ法)によるスプリント作製のデモンストレーションを行い作製上の要点・注意点を示す。						奥村 修也	
	8 スプリント作製(演習)	スプリント作製を実際に行い、基本的な手技を身につける。						奥村 修也	
	9 スプリントの評価・効果・適応について	作製したスプリントが機能的で目的達成できているかなどの基本的なチェックポイントを示し、かつ装着による効果について確認する。						奥村 修也	
	10 義手/筋電義手デモ	義手の種類を学ぶ。筋電義手ユーザーのDEMO見学。						小澤 義直 内藤 了彰	
授業形態	講義、見学、演習、実技実習、グループ討議など								
教科書	義肢装具学(作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト) メジカルビュー社								
参考書	義肢装具のチェックポイント 第8版 医学書院 義肢装具と作業療法 ～評価から実践まで～ 医歯薬出版 ハンドセラピー 第2版 作業療法学全書[改訂第3版] 第9巻 作業療法技術学1 義肢装具学 協同医書出版社 切断と義手第2版 医歯薬出版株式会社 医歯薬出版株式会社 義肢学 第3版 日本義肢装具学会								
評価方法	筆記試験:藤部(20点) レポート:奥村(55点) (座学や演習(チェックアウト)、対象者との面談などを受けての感想文):三重野・鈴木(25点)								
授業時間外の学習	三重野・鈴木:義手の訓練、各部品の名称と役割を理解しておく。 奥村:酒井医療ホームページ動画視聴 (https://www.sakaimed.co.jp/knowledge/hand-therapy/splint/splint02/)								
履修上の留意点	藤部:授業で学んだ範囲を復習しておくこと。 中村・佐藤:義手の基礎的な構造を理解した上で授業を進めるため、履修前に復習しておく。								
担当者の実務経験	病院で作業療法に従事、病院勤務による実務経験あり、当事者								

授業要項

令和6年度

科目名	地域作業療法学 演習				担当者	長屋 政博 渡辺 崇史 石井 隆司 友瀨 可乃子 棚瀬 智美 水野 準也			
学年	3	学期	前期	学科	作業療法学科	単位数	2	時間数	45

教育目標 [一般目標]	<p>○地域リハビリテーションを考える上で必要な事項を学び、地域リハビリテーション、介護予防の現状を知る。</p> <p>○住環境整備論</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活支援および社会参加を促すためのスイッチの適合方法について、製作改造実習を通して理解する。 住宅改修を考える際に必要な建築知識を習得することを目標に、建築の基本構造、設備の基礎知識を学ぶ。 <p>また、在宅生活を目標にリハビリ計画を立てる際に、自宅の現況の把握の重要性と実測調査のポイントを学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害別（片麻痺/脊髄損傷/RA/SCD）の環境整備の考え方を整理し、理解することができる。 <p>○作業療法を通じた国際協力について知る。</p>								
授業計画	テーマ				授業内容 [行動目標]			担当者	
	1	地域リハビリテーションと介護予防の現状			地域リハビリテーションの流れ、現状を理解する。具体的な介護予防を理解する。			長屋 政博	
	2	<ul style="list-style-type: none"> スイッチの適合に関する基礎知識 操作スイッチの製作実習 BDアダプタの製作とおもちゃの改造実習 			<ul style="list-style-type: none"> スイッチ適合に関する基礎知識を理解する。 基本的なスイッチの製作ができる。 乾電池を使った機器等を身体機能に合わせて活用するための、基本的な改造ができる。 			渡辺 崇史	
	3	<ul style="list-style-type: none"> ①リハビリテーション総合実施計画書 <ul style="list-style-type: none"> 入院時訪問指導に係わる評価 退院時訪問指導 ②現況図の見方、作成のポイント ③建築構造基礎 ④建築内部仕上基礎 ⑤建築設備基礎 			<ul style="list-style-type: none"> ①リハビリテーション計画を立てる上で必要な退院後の住環境、家屋構造について基本的な考え方を理解する。 ②現況図の見方と現地実測図の作成のポイントを理解する。 ③木造住宅の造り方と構成を理解する。 鉄筋コンクリート造マンションの造り方と構成を理解する。 ④木造住宅の床の構成を理解する。 木造住宅の壁の構成を理解する。 鉄筋コンクリート造マンションの床の構成を理解する。 鉄筋コンクリート造マンションの壁の構成を理解する。 ⑤木造住宅の給排水設備を理解する。 			石井 隆司	
	4	作業療法を通じた国際交流			作業療法を通して、諸外国と交流できることを知る。 青年海外協力隊（ルーマニア）の活動 日本作業療法士協会国際部の紹介			友瀨 可乃子	
	5	住環境整備論			一般的な住環境整備の理論について理解し説明することができる。			棚瀬 智美	
	6	障害別住環境整備論			片麻痺、脊髄損傷、parkinson、SCDの各障害特性に合った住環境整備について理解し説明することができる。				
	7	症例検討			症例の障害状況や生活状況に合った住環境整備プランを作成し、説明することができる。				
	8	介護保険領域における作業療法			1年生へのプレゼンテーションを通して、介護保険領域における作業療法について理解を深めることができる。				
	9	施設見学						水野 準也	
授業形態	講義、グループワーク、発表など								
教科書	配布資料								
参考書	適宜紹介する。								

評価方法	レポート、感想文、発表等；長屋(7点)、渡辺(9点)、石井(7点)、友瀨(4点)、棚瀬(55点)・水野(18点)
授業時間外の学習	石井：講義終了後にテーマに沿ったレポートを作成し提出。また、実測演習の課題を提出。
履修上の留意点	石井：身体の障害がある者に対して家屋評価は欠かせない。原点は家屋の調査から始まる。調査ノウハウとその基本についての理解が重要である。 渡辺：乾電池(単3形か単4形)で動くおもちゃを各自用意してください(全員)。
担当者の実務経験	病院勤務および対象者支援に関する実務経験あり

授 業 要 項

令和6年度

科目名	職業関連活動				担当者	林 厚志 梅田 雄嗣			
学 年	3	学 期	前期	学 科	作業療法学科	単位数	1	時間数	30

教育目標 [一般目標]	<p>人にとっての職業の意味を知り、障害者の職業リハビリテーション概念、理論を学ぶ。 障害者の就労制度や就労支援について学ぶ。 職業関連活動における作業療法士の役割について学ぶ。 精神障害者に対する就労支援について学ぶ。 職業リハビリテーションサービスの実際を知る。中途障害者の職業復帰の実際を知る(事例で学ぶ)。就業支援サービスにおける作業療法士の役割を考える。</p>								
授業計画	テーマ	授業内容 [行動目標]						担当者	
	1 職業について	・人にとって職業とはいかなる意味のある行為なのかを理解し、説明できる。						梅田 雄嗣	
	2 障害者の就労について	・障害者にとっての職業の意義について説明できる。 ・障害者の就労制度について説明できる。						梅田 雄嗣	
	3 就労支援	・就労支援についての基本的な考え方を説明できる。 ・職業関連活動における作業療法士の役割を理解し、説明できる。						梅田 雄嗣	
	4 就労支援における職業評価	・職業評価の目的と方法について理解できる。 ・職業評価体験を通じて、就労支援における作業療法の役割を理解できる。						梅田 雄嗣	
	5 精神障害者の障害特性 精神障害者に対する作業療法アプローチ 就労支援の実際	・精神障害者における職業の意味や難しさについて理解できる。 ・精神障害者に対する就労支援プログラムの紹介を通じて、作業療法士の視点、役割、アプローチ方法について理解できる。						梅田 雄嗣	
	6 総合拠点方式の就労支援サービスを知る	名古屋市総合リハビリテーションセンターを題材に、医療、福祉(生活支援)、労働(就労支援)の関係性、総合リハビリテーションの一端を説明できる。						林 厚志	
	7 事例で学ぶ支援のノウハウ	高次脳機能障害を主症状としたケースの就職、復職支援について、総合リハビリテーションからジョブコーチ支援に至るまでの基本プロセスを説明できる。						林 厚志	
	8 職業リハビリテーション(職リハ)の基本戦略	・人間システム・社会システムを理解し説明できる。 ・復職支援の前提として、職業の定義を説明できる。 ・職業リハの基本戦略について説明できる。						林 厚志	
	9 障害者雇用に関する社会資源	・法定雇用率や雇用促進法について説明できる。 ・就労支援に関わる主な支援機関、事業について説明できる。						林 厚志	
	10 就業支援サービスにおける専門職の役割	・就業支援に関わる専門職を「基本的な支援を行う立場」と「二次的・専門的支援を行う立場」を説明できる。 ・就労支援におけるOTの役割について説明できる。						林 厚志	
授業形態	講義、演習、ビデオ放映(パソコン上で再生)、パワーポイント、ディスカッション								
教科書	作業療法学全書[改定第3版] 第12巻 職業関連活動 平賀昭信・岩瀬義昭編集 協同医書出版社								

参考書	適宜紹介する。配布資料
評価方法	期末試験(筆記試験);梅田(85点) 学習後レポート;林(15点)
授業時間外の学習	梅田:就労支援の概念について理解が深められるよう、各回の授業後に30分程度復習を行うこと。 林:講義後は配布資料や講義・ディスカッション内容をもとにA4×1~2枚程度のレポートを作成すること。
履修上の留意点	梅田:2年次の精神障害作業療法治療学・精神障害作業療法評価学で学習した内容と、3年次の地域作業療法学演習で学習する内容が関連するので、整理して授業に臨むこと。 林:講義までに学習した「就労支援」に関する内容を復習しておくこと。ディスカッションでは積極的に発言する(一人ひとつ以上は意見を出す)とともに、役割分担し、全員でチームの活性化を意識すること。
担当者の実務経験	病院での作業療法に従事、対象者支援に関する実務経験あり